

## 器楽専攻弦楽器コース 3 ポリシー

### ディプロマ・ポリシー

#### ■ 人材育成目標

器楽専攻弦楽器コースでは以下に挙げる人材の育成を目指しています。

- ・プロフェッショナルな演奏家や指導者、教育者として自ら成長・発展していく力を身につけた人
- ・音楽芸術の発展に寄与し、国際感覚を持ち、広く社会に貢献できる人

#### ■ 卒業までに身につけるべき資質・能力

- ・専門家としての高い演奏技術と知識、豊かな表現能力
- ・音楽作品に対する深い洞察力
- ・独奏、アンサンブル、オーケストラなど、多様な音楽場面で活躍出来る力
- ・自主性を持って自己を成長、発展させてゆく力
- ・国際性と教養

#### ■ 学位の授与方針と評価方法

最終年次の「卒業演奏」を含めた所定の単位を修得した学生を卒業と認め、学士の学位を与えます。

- ・所定の在学期間の確認、必要単位修得の確認
- ・卒業演奏の評価・・・専門実技の学修成果を総合的に審査する「卒業演奏」では、各学生の演奏を複数の教員が様々な視点から個々に採点し、それらの集計結果により評価を決定します。

### カリキュラム・ポリシー

#### ■ 教育課程の編成方針

個人実技レッスン、室内楽、弦楽合奏、オーケストラなどのアンサンブル系の授業を中心に、基礎の徹底から多くの演奏体験などにより、洞察力を持ったプロフェッショナルな表現力、応用力の習得ができるようなカリキュラムを編成しています。

#### ■ 具体的なカリキュラム構成と特徴

1 年次より 4 年間一貫して行われる充実した個人レッスンと同時に、アンサンブル教育の重視がコースの特徴です。

- ・弦楽四重奏を中心とした弦楽器コースの授業でアンサンブルの基礎を学び、より規模の大きなアンサンブルである弦楽合奏、さらにオーケストラの授業へと発展させていくことで、より深く音楽の本質を学ぶと同時に、主体性をもって多様な人々と協働して学ぶ態度を身につけます。
- ・室内楽・弦楽合奏・オーケストラそれぞれにおける定期演奏会・学内演奏会などの多くの演奏機会により演奏家としての経験と姿勢を学び、さらに外来のアーティストによるレッスンや共演、提携校への派遣留学制度などにより、国際的な学修経験を積む機会が設けられています。

#### ■ 教育課程の評価方針・方法

- ・専門実技試験では、各学生の演奏を複数の教員が様々な視点から個々に採点し、集計結果により評価します。
- ・その他の授業科目については、各科目の担当教員がシラバスに定めた方法によって評価します。

### アドミッション・ポリシー

#### ■ 求める人物像

- ・演奏家としての資質と技術を備えている人
- ・将来音楽界、芸術教育界を担うべく意欲旺盛な人
- ・より高い技術やより深い音楽性を貪欲に求める人
- ・アンサンブルなど共同での演奏に関心のある人

- ・自然を愛し、豊かな感受性、想像力を備えている人
- 入学前に身につけてほしい学習成果
  - 専門実技能力
    - ・音に対する感性を大切にした勉強
    - ・感じたことを表現しようとする姿勢
    - ・音階・練習曲等、基礎技術の学習
    - ・様々な時代様式の作品の勉強
  - 音楽の基礎的能力（ソルフェージュ、ピアノ、楽典）
  - 基礎的な学力、語学力
- 入学試験の基本的な方針・考え方
  - 【一般入学試験】
    - ・専門実技試験の結果に加え、音楽の基礎的能力試験（ソルフェージュ、ピアノ、楽典）と大学入試センター試験（外国語、他）の結果を総合して合否を判定します。
    - ・専門実技試験では、演奏家としての資質、技術、表現力をみます。受験者一人一人の独奏を複数の審査員が様々な視点から個々に採点し、それらを集計した結果により評価を決定します。
  - 【推薦入学試験】
    - ・書類審査（音楽活動記録、調査書他）の後、専攻実技試験、音楽の基礎的能力試験、口述試験の結果を総合して合否を判定します。